



## 改めて算数の学習の大切さについて

小学校の算数教育は、単に「計算ができるようになること」だけが目的ではありません。これからの激変する世の中を生き抜くために、文部科学省の学習指導要領でもその重要性が強く打ち出されています。なぜ、これからの時代に小学校の算数がそれほど大切なのか、学習指導要領のポイントと絡めて分かりやすく解説します。

### 1 これからの世の中（予測困難な時代）に求められる力

現在の社会は、AIの急速な進化、ビッグデータの活用、そして少子高齢化やグローバル化など、「正解のない、予測困難な時代（VUCAの時代）」と言われています。このような時代には、単に知識を暗記しているだけでは通用しません。溢れる情報から必要なデータを整理・分析する力、論理的に筋道を立てて考え、最適な解決策を導き出す力これらこそが、これからの世の中を生きる子どもたちに必須の武器となります。そして、その基盤を育てる最たる教科が「算数」なのです。

### 2 小学校・算数学習指導要領が目指す「3つの柱」

- ①**知識及び技能**：単なる計算の丸暗記ではなく、「数量や図形についての基礎的な概念」を深く理解すること。日常生活で使えるレベルの計算力や、図形を捉える力を身に付ける。
- ②**思考力、判断力、表現力等**：「どうしてそうなるのか？」を論理的に考える力（数学的な思考力）。自分の考えを言葉、数式、図、グラフなどを使って相手に分かりやすく伝える力（表現力）の育成。
- ③**学びに向かう力、人間性等**：算数で学んだことを「実際の生活や社会の課題解決に生かそう」とする態度。粘り強く問題解決に取り組み、新しい発見を楽しむ姿勢を育む。

### 3 なぜ今、小学校の算数がそこまで大切なのか？

- ◆「**数学的な見方・考え方**」は一生モノの思考ツール：学習指導要領で最も強調されているのが「数学的な見方・考え方」です。これは、事象を「数量」や「図形」の側面から捉え、論理的に考える視点のことです。大人になってプログラミングを学ぶときも、ビジネスでデータを分析するときも、あるいは家計のやりくりや買い物の選択をするときも、すべてこの「数学的な見方・考え方」がベースになります。
- ◆「**問題解決能力**」の育成：算数の授業は「課題に会う→既習の知識を使って予想する→解決方法を考える→友だちと話し合っ→洗練させる→振り返る」というプロセスをたどります。この一連の流れ自体が、社会に出てからトラブルや新しいプロジェクトに直面したときの問題解決プロセスそのものなのです。
- ◆「**AI時代**」だからこそ、算数の本質が必要：計算や単純なデータ処理は、AIやコンピューターが圧倒的なスピードでやってくれる時代です。だからこそ人間には、「AIが出したデータをどう解釈するか」「どの数式（プログラム）を当てはめれば問題が解決するか」を判断する力が求められます。小学校の算数は、その「仕組みを理解し、活用する力」の土台を築く期間として、これまで以上に重要性が高まっています。

### まとめ

これからの世の中における小学校の算数は、「未来を生き抜くための論理的思考力のトレーニング」です。テストで100点を取ることだけがゴールではなく、「算数って便利だな」「こうやって考えれば解決できるんだ！」という成功体験を小学生のうちにどれだけ積めるかが、子どもたちの将来の可能性を大きく広げることに繋がります。

## 未来を生き抜く武器になる：小学校算数が「一生モノ」である理由

現代はAIの進化やグローバル化により、正解のない「予測困難な時代（VUCA）」に入っています。文部科学省の学習指導要領に基づき、小学校の算数は、溢れる情報を分析し、論理的な最適解を導き出すための「一生モノの思考ツール」を養う重要な役割を担っています。

### 算数学習が育む「3つの柱」



### AI時代に「算数の本質」が必要な理由

